

平成29年度事業計画 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

1. 基本方針

ここ数年鉄骨年間需要は500万トンを超え、首都圏を中心とした大型再開発事業が既に始動していることや、オリンピック・パラリンピック関連施設が29年度には本格的に動き出すと見込まれること、また計画の見直し等により遅れていた物件も順次発注されると思われることから、昨年以上の需要が見込まれる予測があるものの、依然として首都圏中心の大型物件が主体である。

一昨年、免震ゴムデータの偽装、マンション杭打ち不正流用、橋梁落下防止プレートでの意図的な不良施工と非破壊検査の不正といった不祥事を教訓に、品質に関する揺らいだ信頼を戻すべく技能者・管理技術者の技術力のみでなく倫理教育も含めた業界一体となった改善が必要である。

その様な中で当協会は、開先角度に関するJASS6の改訂に伴う品質的な評価を立証し、多くの設計者に運用されるよう平成28年度では実際の溶接と非破壊検査を行い、その結果を8月末から9月初めにかけて開催される日本建築学会での講演で発表する。また本年度はその実験を引き継ぎ機械的試験による品質確認を行なう計画である。

業界の発展のためには必要不可欠な若年者・若手技術・技能者に対する指導として、溶接競技大会へ高校生からの率先した参加意識の拡大とそれに出場するための指導、またガス・アーク溶接といった安全衛生教育の受講増大、各会員事業所に入社する新入社員に対する総合的な教育を行なう他、またそのための指導者として「ものづくりマイスター」を利用すべく登録の増加を行う。

更に協会組織の強化・活性化を図りながら、譲り合い・助け合いの精神を育み、結束力のある活動を推進し、業界の健全な発展と鉄構・溶接技術の普及啓発、及び溶接技能者の育成並びに鋼構造物の品質の向上を目指すことを最重点課題とし、下記の重点事業11項目を3つの委員会と青年部会を通して積極的に推進、また会員・賛助会員の相互の協力・支援により企業経営の安定化を目指し、協調態勢の確立を図ると共に社会的地位の向上を実現化させることを基本方針とします。

2. 重点事業

- (1) 生産、流通及び利用消費に関する事業
- (2) 業界意見の行政機関、公共団体、関係団体に建議及び具申
- (3) 性能評価認定制度の業務対応と推進
- (4) 労働安全衛生法に基づく技能講習、特別教育の実施
- (5) JIS規格、WES規格に基づく溶接技能者評価試験の受託業務
- (6) 講習会、研修会、競技会等の企画及び実施
- (7) 品質に関する施策の研究及び推進
- (8) 労働災害の撲滅に関する安全管理の推進
- (9) 認定職業訓練事業の企画及び実施
- (10) 福利厚生事業の推進
- (11) 鋼構造物工事にに関する各種共同事業の推進

3. 実施事業(継続事業)

- (1) JIS規格、日本溶接協会規格に基づく溶接技能試験(資格付与)に関する事業

この事業は、溶接構造物を一般社会に提供し、社会基盤の整備に必要不可欠である高品質製品を製作・提供し、国民財産を将来に渡って保障するために発注者からの溶接施工等に関する仕様書などで要求される溶接品質を確保することを目的に、日本工業規格、(一社)日本溶接協会規格に基づく溶接技能者評価試験に係る受託事業を実施する。

- 申請受付、学科試験、実技試験を実施。サーベイランス。資格証の付与。
- 試験は、1月と8月を除き毎月ポリテクセンター山梨の会場を借用して実施する。
 - 溶接安全委員会が担当する。

(2) 鉄構・溶接技術、技能の競技大会に関する事業

この事業は、近年溶接技術や技能が飛躍的に向上している中で、あらゆる工業分野に極めて大きな貢献をしていることは周知の通りであり、競争力の高い製品や技術が求められる今日、溶接品質は溶接従事者の技術依存が高く、溶接技術の向上には優秀な機器・溶接材料の進歩と共に、優秀な溶接技能を有する人々の技量が大きな役割を果たしている。

そこで、更なる技術の向上の機会を提供すると共に溶接技術の普及を図るため、県内の溶接技能者を一同に会して「山梨県溶接技術競技大会」を開催し、その技術を評価し表彰する事により、溶接技術の向上に資する役割を図る。

また、高等学校学習指導要領の履修科目「工業技術基礎」には材料加工の接合に溶接が明記されており、県内の工業系を主体とした高校生による「山梨県高等学校溶接競技会」を開催し、溶接は物づくりに貴重な技術であり、重要な地位を占めていることを勉強して頂く。

○ 山梨県溶接技術競技大会

競技種目は、被覆アーク溶接の部、炭酸ガスアーク溶接の部の2部門で薄板・中板について所定の課題を溶接で仕上げる競技内容である。また各部門の優勝者には山梨県知事賞が贈られ、県代表として全国溶接技術競技会への出場に推薦する。

○ 山梨県高等学校溶接競技会、関東甲信越高校生溶接コンクール

県内の各高等学校から推薦された1校2クラスは6名以内、1クラスは4名以内の高校生による被覆アーク溶接「A-2F」で技術を競い、優勝者には山梨県教育長賞が贈られ、3年生を除く上位2名が、翌年度開催の関東甲信越高校生溶接コンクールに県代表として推薦する。

○ 溶接インストラクター、マイスター・熟練講師による、技術向上のための溶接実務研修会

工業系高校の教員を対象にした溶接技術実務研修会を実施し、教員の技術を向上させると共に、溶接への理解を深めて頂くことで高校内部からの活性化を図る。

また高校生への溶接技術指導を実施し、高校生溶接競技会でのレベルアップを図る。

- 溶接安全委員会が担当する。

(3) 鉄構・溶接工業の品質管理及び安全管理に関する事業

鉄構・溶接工場は、重量物を移動させるためのクレーン作業、玉掛作業、高温・高熱による溶接作業など、これら悪条件下での工場作業員の業務は労働災害防止による従業員の安全衛生を確保することが業界団体としての最重要課題であり、各社における安全衛生管理体制の確立を支援し、安心して安全な業務環境の中での工場生産活動を推進する。

また良品の溶接構造物を社会に提供するため、製造工場毎に品質管理体制を強化する。

なお、この事業は業界内部の委員による品質及び安全点検パトロールで実施し、その実施方法はチェックシートによる同業者の厳しい目線での品質及び安全点検を行い、指摘と改善指導により事故及び災害の未然防止に寄与する。

○ 技術・品質に関するパトロール

巡回パトロールの実施により、製作工場における溶接品質を確保し、業界全体としてのレベルアップを目指す。

- 教育技術委員会が担当する。

○ 安全点検パトロール

悪条件下での作業や機械・設備不良、作業方法の不備及び保護具の未着用など、溶接安全委員会による巡回パトロールを実施し、労働災害や職業病の発生を防止させるための活動を行い、業界全体の安全意識のレベルアップを目指す。

○ 安全標語の募集を行い、企業における安全衛生管理体制の確立を支援する。

- 溶接安全委員会が担当する。

4. その他の重要な事業

(1) 鉄構・溶接技術、技能に係る講習会に関する事業

この事業は、鋼構造物の製作に必要な技術者及び製作工場の安全作業に必要な専門的知識、技能等について専門講師による講習を実施し、業務に必要な安全性を確保するための教育や信頼性の維持向上を図るための人材育成を図り、勤労意欲のある者に対する就労支援を行う。

- 工場内での安全作業を習得するため、労働安全衛生法に基づく各種安全講習会を行う。
ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育、5t未満のクレーン運転特別教育、粉じん作業従事者特別教育、自由研削砥石の取替作業特別教育、等の実施
玉掛技能講習、床上操作・移動式クレーン技能講習、等専門講習機関への斡旋
- 工場内での技術・品質向上を確保するために必要な資格の取得支援を行う。
鉄骨製作管理技術者、溶接管理技術者、超音波探傷検査技術者 等
- 認定職業訓練補助金事業による各種技術、技能者養成講習会の開催
- 安全に関するリスクアセスメントの勉強と普及
- ガス溶接作業主任者試験受験準備講習会
 - 教育技術委員会が担当する。

(2) 鉄構・溶接工業の生産、流通、品質に関する調査事業

会員に対する業況調査を毎年実施し、県内で加工する鉄骨工事量を把握することで、会員企業の仕事量の平準化に貢献すると共に、山梨県中小企業団体中央会、全国鐵構工業協会との情報交換を行い、全国規模での情報収集により経営・労務の改善に寄与する。

- 会員に対し業況調査を毎月実施し会員の生産する鉄骨工事量の把握を行う。
鉄骨工事見積物件届出制度の推進、受注物件報告による会員企業の鉄骨生産実績トン数の把握、工場稼働率確保のための工事受注斡旋 等
- 官公庁鉄骨工事の地元受注に向けて関東支部運営委員会を通してのテーマ物件制度の推進
 - 経営近代化委員会が担当する。

(3) -1. 会員が行う共益事業、共同受注及び斡旋事業、共同検査事業

- 鉄骨工事の見積に関する共同積算システムを利用した共同積算事業の推進
- 官公庁鉄骨工事の地元受注を目指したテーマ物件制度の推進
- 会員の需要する資材及び副資材の共同購買事業の推進

(3) -2. 賛助会員との連携による塗料、溶接ワイヤー、燃料、消耗品の共同購買

- 鋼構造物及び製造設備の共同検査に関する事業
- 鉄骨溶接部の超音波探傷検査による共同検査、工場内の床上操作式クレーンの共同点検
 - 経営近代化委員会が担当する。

5. 委員会事業

(1) 経営近代化委員会

(一社)全国鐵構工業協会、関東支部会・事業委員会等との連携と協調により事業を推進する。

- ① 適正品質の鋼構造物を社会に提供するための元請下請問の契約取引関係の適正化及び不況対策の検討。
 - 原価意識の高揚と徹底、適正価格受注、情報の共有化、共同受注を推進
 - 行政、ゼネコン、施主等への陳情活動
- ② 共同購買事業の健全化とクレーン定期点検の実施
- ③ 関東支部運営委員会への出席による情報交換
- ④ 原価管理シートと積算ソフトのリンク化の実施

(2) 教育技術委員会

山梨県産業技術センター、(株)全国鉄骨評価機構、山梨県産業技術短期大学校との連携と協調により事業を推進する。

- ① 鉄骨技術、溶接技術に関する技術の研究及び研鑽。
 - 鉄骨製作、溶接に関する専門知識の向上を目的とした講習会
 - 溶接技術に関する知識の普及啓発
- ② 性能評価大臣認定取得に向けた技術・品質サポート制度の活用。
 - 性能評価認定の取得に向けた説明会、勉強会の開催
 - 鉄骨製作工場毎の基準マニュアル改定の支援
 - 認定の更新、新規取得、グレード昇格の支援
- ③ 製品品質向上のための技術の研鑽及び事業所間の連携強化。
 - 性能評価認定グレードによる部会の開催
 - 青年部会への支援
- ④ 賛助会員を巻き込んだ総合展示販売会の計画

(3) 溶接安全委員会

(一社)日本溶接協会、山梨労働局、山梨県産業技術センター、山梨職業訓練支援センターとの連携と協調により事業を推進する。

- ① 安全に関する作業手順書の作成の検討
- ② 労災防止活動としての山梨県労働災害防止団体等連絡協議会との協調。
 - 山梨県産業安全衛生大会への協賛と参加
 - 協議会の会議への出席による情報交換
- ③ 東部地区溶接協会連絡会への参加による情報の収集及び提供。
 - 東部地区の各県持ち回りで、溶接技術向上のための情報交換と資料の収集を行う。
- ④ 協会のイメージアップを図り、将来的に当業界への就職希望者の増加を目的として、県内工業系高校生に対し協会をアピールする場を設ける。
- ⑤ 半自動溶接 30度開先基準化への追加試験

6. 事務局業務

- (1) 予算管理及び財産管理、総会・新年会の企画及び運営を行う。
 - 毎月の収支試算表・決算処理のチェックと予算案の作成
 - 社員総会、新年会の企画及び運営
- (2) 公官署、関連団体との協調による情報収集及び提供とPR活動並びに研究開発の推進。
 - 山梨県、山梨労働局、山梨県産業技術センター、ポリテクセンター山梨、山梨県中小企業団体中央会との連携協調
 - 日本溶接協会、東部地区溶接協会連絡会、全国鐵構工業協会、関東支部会、関東支部事業委員会、全国鉄骨評価機構、山梨県労働災害防止団体等連絡協議会などとの連携協調
 - 山梨県建設産業団体連合会、山梨県建築設計関係団体との連携協調
 - 溶接の開先に関する基準改正に向けた研究開発の推進
 - ホームページ掲載内容の充実
- (3) 労働局助成事業を活用した、協会会員企業の人材育成の計画的推進
 - 新入社員に対する集合OFF-JT教育の立案と社内OJT教育の策定
- (4) 事業所従業員の健康保持のための健康診断の実施。
 - 山梨病院健康管理センターを通し、集団健診及びじん肺検査の実施
- (5) 委員会に関する業務並びにその他の事務局業務の実施。
 - 経営近代化、教育技術、溶接安全の3委員会に関する業務
 - その他事務局に関する業務